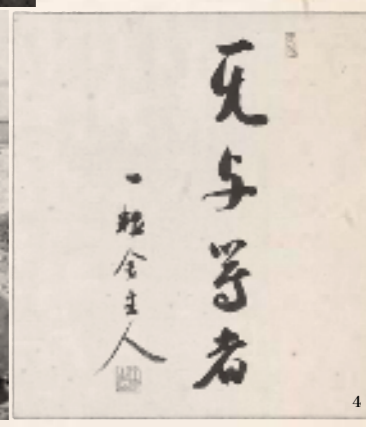
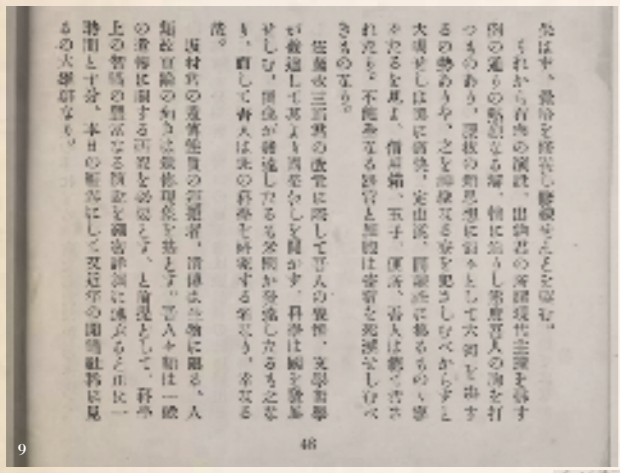
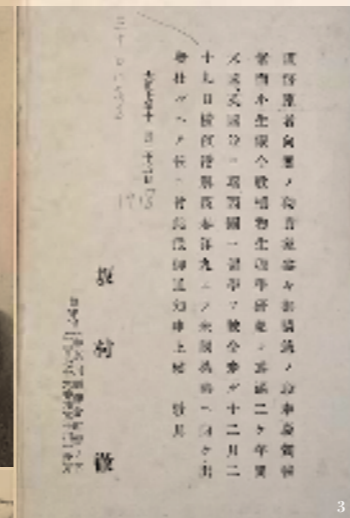
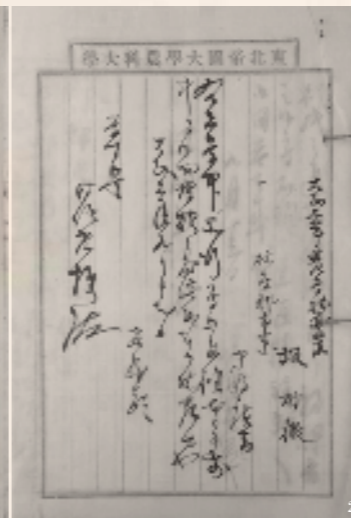


挑戦の140年

SCENE-16

1886-1976

「大学院の設置」



1. 松村松年 (1901年、大学文書館蔵)
2. 教務部が学生監に対して行った坂村徹と中島広吉の品行調査 (1913年、大学文書館蔵) 大学院進学の際の調査と思われる
3. 坂村徹の欧米留学出発挨拶の葉書 (1917年、大学文書館蔵)
4. 木原均の自筆色紙 (大学文書館蔵) 「無与等者」は同じものがいないことを意味する仏教用語、「一粒舎主人」は木原の号
5. 札幌農学校植物学教室の教員・学生 (1906年ころ、植物園蔵) 後列右が宮城鐵夫、前列右2番目に宮部金吾教授
6. 北海道帝国大学農科大学植物学教室の教員・学生 (1918年、植物園蔵) 後列左端が木原均
7. 坂村徹 (1926年、大学文書館蔵)
8. 坂村徹がフランスの植物生理学者ギリエモンドの研究を筆写したノート (大学文書館蔵)
9. 坂村徹の開識社での講演の様子を記す『辛夷』第2号 (1912年、大学文書館蔵)
10. 小麦研究記念碑 (2019年撮影) 理学部6号館の西に建っている

札幌農学校の研究生制度

日本の大学院の始まりは、一八八六年の帝国大学(後の東京帝国大学)の設置である。最初の大学院生は十九名、法学八名、文学四名、理学三名、工学四名であった。

同じ年、大学ではないため大学院を置くことができない札幌農学校では、本科卒業後も籍を置いて研究を続ける「研究生」制度が正式に始まった。一八八六年十二月制定の「札幌農学校官制」では研究生について、「卒業生中学力優等才能抜群」の者に学資を支給し、一年以上三年以下の在籍期間には「学術ニ関スル諸項ヲ調査」し、場合によっては授業を補助すると定めた。札幌農学校が北海道庁から文部省へと所管替えとなった後、一八九六年九月施行の「札幌農学校校則」では、研究生を「本科卒業生ニシテ既修ノ一学科ヲ更ニ攻究セント欲スル者」が学費を自弁して、二年以内の在籍期間に「攻究ノ業ニ従事スル」と定めた。

研究生生活

一八九五年七月に札幌農学校本科を卒業した松村松年(一八七二〜一九六〇年)は、「もっと昆虫の研究を続けたかったので、研究生として学校に残ることを志願した」と回想している。研究生として月十二円五十銭の学資金の支給を受け、農学校の農業技術を指導するコース「農芸伝習科」の昆虫学の講義も任された。一年後、松村は札幌農学校助教教授となり

限る、人類改良論の如きは遺伝現象を基とす。吾人々類は一般の遺伝に関する研究を富なる演説を細密詳細に述ぶること正に一時間と十分」(『辛夷』第2号、1912年12月)

大学院における研究

一九〇七年、札幌農学校は東北帝国大学農科大学へと改組して帝国大学に昇格し、翌一九〇八年七月には大学院に関する規程を定めた。東北帝国大学農科大学の最初の大学院生は、一九一三年に進学した坂村徹(植物学)、中島広吉(林学)、市川厚一(畜産学)、逸見文雄(農芸化学)の四名である。

坂村徹(一八八八〜一九八〇年)は大学院進学前から、染色体の形態学的な研究を行っていた。農科大学三年生の一九一二年十一月、恵迪寮が開催した言論集会「開識社」で「遺伝物質の運搬者」と題した講演を行った。当時、予科一年級に在学して

いた木原均(一八九三〜一九八六年)は、この講演について「細胞核、染色体について聞いた最初の学術講演であった。寮生一同の感銘は非常に深く」と回想している。当時の恵迪寮の文芸誌『辛夷』第二号にも「近年の開識社稀に見るの大雄弁なり」と絶賛している。坂村は「植物ニ於ケル遺伝及ヒ之ニ関スル細胞学攻究」を研究テーマとして大学院に進学し、小麦の染色体の研究を行った。大学院を修了する一九一八年には、小麦の染色体数を明らかにする画期的な業績を上げた。大学院修了後、坂村は東北帝国大学農科大学を改組した北海道帝国大学の助教教授に就任し、欧米留学に赴いた。留学のため中断を余儀なくされた小麦研究を引き継いだのは、坂村と入れ違いに大学院に進学した木原均であった。

「坂村君の遺伝性質の運搬者、遺伝は生物に必要とす、と前提として、科学上の知識の豊

小麦研究記念碑

帰国した坂村は、後に農学部教授から新設の理学部の植物学講座教授に転出し、植物生理学の分野で多大な業績を上げ、一九七六年に文化功労者として顕彰を受けた。一方、木原は間もなく京都帝国大学に転出して小麦の研究を続け、一九四三年に日本学士院恩賜賞を受賞し、細胞遺伝学研究の第一人者として一九四八年には文化勲章を受章した。

一九七六年、北海道大学創基百年にあたり、坂村徹と木原均に研究材料を提供したキャンパス内の小麦田圃跡に「小麦研究記念碑」を建立した。北大最初の大学院生とその研究を引き継いだ後輩の研究物語のミニメントである。

Hokkaido University HISTORY 1886-1976	
1886年	3月 - 帝国大学令により大学院を規定 12月 - 札幌農学校の研究生を制度化
1896年	9月 - 札幌農学校の研究生制度を改正
1907年	9月 - 札幌農学校を東北帝国大学農科大学に改組
1908年	8月 - 東北帝国大学農科大学の大学院に関する規程を制定
1913年	9月 - 東北帝国大学農科大学最初の大学院生4名(坂村徹ら)が進学
1918年	4月 - 東北帝国大学農科大学が北海道帝国大学として独立 9月 - 木原均が大学院に進学 12月 - 大学院を修了した坂村徹が助教教授として海外留学へ、木原均が小麦研究を引き継ぐ
1920年	4月 - 木原均が京都帝国大学理学部助手に就任 7月 - 坂村徹に理学博士号授与(東京帝国大学)
1921年	12月 - 坂村徹が農学部教授に昇任
1924年	4月 - 木原均が新設の京都帝国大学農学部の助教教授に就任(1927年教授) 7月 - 木原均に理学博士号授与(京都帝国大学)
1930年	4月 - 北海道帝国大学理学部創設、坂村徹が理学部教授に転出
1976年	9月 - 北海道大学の小麦田圃の跡に小麦研究記念碑建立

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives
北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。